

令和6年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第四小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・6年生の知識・技能の観点において、目標値を上回った。繰り返し漢字の読み書きに取り組ませたり、言葉の使い方についての学習を継続して丁寧に行ったりしたことが成果として現れている。

(2) 課題

- ・自分の考えを明確にして文章を書く力が十分ではない。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	目標値を1.8ポイント下回った。		
第5学年	目標値を2.6ポイント下回った。 達成率は昨年度より7.6ポイント下回った。	令和5年度の4年生の目標値を5.5ポイント下回った。	
第6学年	目標値を1.5ポイント上回った。 達成率は昨年度より1.3ポイント下回った。	令和5年度の5年生の目標値を1.8ポイント上回った。 達成率は令和4年度より2.9ポイント上回った。	令和4年度の4年生の目標値を0.5ポイント下回った。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
4年生は、目標値に比べ0.9ポイント下回った。主語と述語の関係を問う問題や、ローマ字表記を読む問題についての正答率が特に低い。	4年生は、目標値に比べ0.9ポイント下回った。情報と情報を関連させながら、自分の考えを明確にして文章を書く問題についての正答率が特に低い。	4年生は、目標値に比べ8.6ポイント下回った。自分の考えを明確にしながら、最後まで文章を書くことができる児童が少ない。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
5年生は、目標値に比べ3.7ポイント下回った。6年生は、目標値に比べ4.6ポイント上回った。文法や敬語に関する問題についての正答率が低い。	5年生は、目標値に比べ2.6ポイント下回った。6年生は、目標値に比べ0.9ポイント下回った。登場人物の心情を捉えたり、自分の考えを文章に表したりする問題についての正答率が低い。	5年生は、目標値に比べ4.8ポイント下回った。6年生は、目標値に比べ6.1ポイント下回った。自分の考えを明確にしながら、最後まで文章を書くことができる児童が少ない。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
文章を書く際には、書きたいことをメモしてから書く習慣を身に付けさせ、書きたいことを明確にするとともに「はじめ・中・おわり」のようにまとまりに分けて書けるようにする。主語と述語の関係を理解して文章を書くようにする。また、自分の書いた文章が、主語と述語の関係が照応しているかを読み返す習慣を付けさせる。	児童同士が互いに書いたものを読み合う活動を通して、よいところを見付け感想を伝え合うようにする。 経験した出来事を、内容や時間のまとまりを順序立てて書き表すことができるようにする。 日常生活や体験的な学習活動の中で感じたことを言葉や歌、絵、動作などを用いて表現する。	身近な出来事や、日常生活と関連した題材を取り入れ、学習課題を解決することで、生活がよりよくなることを実感させる。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
地名や名前など日常生活の中にあるローマ字を読んだり、学習用端末を用いてローマ字を書いたりする活動を設定する。また、他教科でも自分の名前や日常的な言葉をローマ字で書く活動を行う。 詩や物語を書く活動、短文作りなどの活動を通して、情報や自分の思いを言葉や文に表す活動に継続的に取り組む。 国語辞典や学習用端末を手元に置いてすぐ活用できるようにし、語彙力を増やすことで、自分の気持ちや感じ方を具体的に書く力を高める。	日常生活や他教科での記録文等を書くなど、教育活動全体を通して、書く機会を増やし、書くことの経験を重ね、書く習慣を定着させる。 書く活動では、書く目的や書く相手を明確にし、書くことの必要性や意義をもたせた指導を行う。 自分の考えと、考えを支える理由や事例を明確に記述できるよう、「なぜなら」「その理由は」などの表現を効果的に用いることができるように指導する。 書いたものを発表し合い、自分の考えとの相違点や共通点を基に自分の考えを深めたり再構築したりする。	児童にとって興味のある題材や身近にある共通の題材を設定する。 児童が書いた文章について、どこがよかったのか、どのように書けばよくなるのかを具体的に指導し、児童が最後まで粘り強く取り組めるようにする。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
文法についての知識が定着するよう、文章を読んだり書いたりする学習においても意図的・継続的に取り上げ、理解が深まるようにする。 敬語についての知識が定着するよう、敬語を使う必要がある場面を具体的に想定し、丁寧語、尊敬語、謙譲語を区別しながら適切に使い分けられるようにする。また、普段の生活場面でも意識的に敬語を使わせるようにする。	互いの立場や意図をはっきりさせながら計画的に話したり聞いたりすることができるよう提案や討議などの活動に取り組む。 テーマや課題に応じて、文章全体の構成を考えながら、自分の考えを明確にして文章を書く活動に重点的に取り組む。自分の考えを明確に持たせるために、筆者の主張や説明の仕方について自分の立場を明確にさせ、なぜそのように考えたのかを事前に記述させるなど、学習過程を工夫して段階的に丁寧に指導する。また、タブレットを活用して書いたものを共有し、学び合いができる時間を計画的に設定する。	考えを広げたり深めたりしながら学習することができるように、目的や意図に合わせた様々な題材に取り組む。 学習の見通しをもたせ、課題意識をもって主体的に学習が進められるようにする。 学習の振り返りの時間を計画的に設定し、単元を通して学んだことを実感できるようにする。